清流ニューズ

発行所
八王子市子安町 1-22-25
清流寺
清流ニューズ編集室
電話(042)646-0287(代)
FAX(042)644-1164
http://seiryuji.jpn.org/

平成二十七年度総祈願
本年度教化誓願達成
佛立開導日扇聖人ご生誕二百年慶讃
佛立開花運動第三年度御奉公成就之御願
晨尊三十三回御諱報恩御奉公成就
役中後継者養成・法灯相続促進

六月の御総講日

一日　十時　御修行日
七日　十時　バースデー総講
日序上人報恩祈念
十三日　十時　高祖御命日
十七日　十時　開導御命日
廿五日　十時　門祖御命日

於清流寺

十二日　十時　高祖御逮夜
十六日　十時　開導御逮夜
廿四日　十時　門祖御逮夜
日序上人ご祥月
廿九日　十時　歓尊御命日

於羽村別院

特別行事
十四日(日)十時三十分
東京中央布教区
弘通促進大会　於当山

会議

一日　御総講後　役中会議
廿五日　御総講後　教区長会議
廿八日　午後二時　事務局参事会

本年度のご弘通年度は後半に突入
ご利益の花を咲かせよう！

平成廿七年の弘通年度は、後半に入りました。

乗泉寺信廣門末は、日晨上人三十三回御諱前年のご奉公が展開されて、本年と明年は報恩記念ですから、一層ご弘通に精進がのぞまれます。

全く月日の経つのは早いもので、弘通年度も半年が過ぎてしまいました。

宗門の佛立開花運動は、「御利益の花」を咲かせることが目的ですから、一人ひとりがご利益を頂き、その信心をご弘通のエネルギーに替えることが大事です。

宗門総回向
七月十二日(日)
本山宥清寺にて奉修
奉納は六月廿五日までに

来る七月十二日(日)京都本山・宥清寺に於て、佛立開導日扇聖人御正当会に併せて宗門総回向が奉修される。

御講有上人を総導師としてご出座の御教務方により総回向が営まれます。

この「宗門総回向料」は、当宗の三大奉納金の一つで重要な役割をもち、宗門運営の資として大事な奉納金で、殊に当山は、盂蘭盆回向は行わず、宗門総回向にふりむけますので、一霊でも多く申し込みましょう。

廿四日 羽村別院にて
先住ご祥月法要

今月廿四日は先住日序上人の祥月ご命日です。

当日は、門祖日隆聖人の御逮夜総講後清流墓苑にて、ご墓前での御回向をさせていただきます。

昨年は御十七回忌のご法要が営まれましたが、本年はご墓前にての法要だけになりますが、報恩謝徳の意味からもお参詣してお焼香をさせていただきましょう。

六月朝参詣強調週間
二日～六日
第一連合担当

六月二日より六日迄、朝参詣強調週間です。

第一連合が担当で、元八王子教区から八王子北教区までの五教区は、シッカリ将引をして朝参詣に気張りましょう。

六月二日（月）元八王子教区
三日（火）八王子東教区
四日（水）八王子西教区
五日（木）八王子南教区
六日（金）八王子北教区

常寂院様(日序上人のご内室)
七回忌法要について
十七日御総講後奉修

六月廿日は、常寂院様の七回忌ご正当です。

今回は、日程を繰り上げ、十七日の御総講後に法要が営まれることになりました。

すでに参詣者の報告は済んでいますが、各教区とも、ご披露にもれのないようご奉公願います。

例月七日
全教区合同教化道場

毎月七日の御総講日は弘通デーで、全教区合同の教化道場が実施されます。

各教区では、それぞれ教化道場を実施していますが、清流寺の御宝前で全教区の誓願者が一堂に会して御弘通を祈願させて頂くことにより一層弘通意欲を発すエネルギーが、湧いてまいりますから一人でも多くお参詣に気張りましょう。

日序上人御十七回忌報恩ご奉公
御有志奉納者氏名(その六十六)
(教区順。敬称略。順不同)
二十七年五月十四日現在
合計 八三三名、一，六二〇口

本月の御妙判

一向令唱題目

妙法蓮華経ノ五字は経ノ文二非ズ。其の義に非ズ。唯だ一部の意のみ。
（四信五品抄縮１５４２）

日蓮聖人の門下は皆一同に南〇経と唱ふるのですが、南無とは帰依する事であり、帰依するということは之を信じ、之に頼り、之によって救われる事を深く感謝するということであります。そして、南〇経と唱えるのは、たゞ、この経典に帰依するという意味でもなく、又妙〇経という字の意味を理解したから帰依の念が起こるという意でもありません。法華経一部の意を知って、之に帰依するのであります。法華経全体の内容を〝妙〇経〟という五字を以てあらわしたのです。

この法華経に於て唯一絶対の本仏が、この娑婆世界の一切衆生を救わんが為に釈迦牟尼仏として此世に出現せられたという事が説かれてあります。又、釈尊は、我等が皆悉く貴い仏性をそなえていて、その仏性が、充分に開発せられゝば誰でも皆仏に成れるという事を明らかにせられ一切衆生を成仏せしめんという御心で教えを説かれたわけです。

仏になる為には菩薩の修行であるところの〝菩薩行〟に励まねばなりません。心が菩薩になれば、おのずから

題目をひろめて娑婆を利益する人を本化の菩薩とぞいふ

とお示しの御教歌のように、法華経の御本意である〝**一向令唱題目**〟が実践できれば、心は菩薩となり、他にもスゝメルという事になりますから、先づ、唱えるという事が法華経の御本意に叶い、仏の教えを素直に実行するから

〝ワレモ唱へ、他ニモス、メンノミコソ、今生人界ノ思出ナルベシ〟

という御妙判の実践が成就するのであります。

〝妙〇経の極意は、人を助けんと行ずれば我身たすかるといふ菩薩行也。是則此経の御本意也。御弟子旦那之を信ずべき也〟（仏立要談）

われも唱え、他に唱えさせ、というように皆の心が菩薩になれば争いもなく、苦悩もなく、この穢土といわれているところが浄土と変わってくるのであります。これを〝**娑婆即寂光**〟と申すのですが、上行所伝のお題目を唱えることによって、いついかなるときも諸天の守護もあり、災ひは転じて福となる、という素晴らしい日常となるのであります。

法華経という教えの素晴らしさ、その魂というべきお題目の尊さをしっかり認識しなければなりません。

一向令唱題目と申して、ともあれ、お題目を一向に唱えるという日常の御信心が大切なのであります。